

編集企画体制への道(1)

～セミナー事業② スーパーセミナーとの遭遇～ 代表取締役 吉田 隆

●集客目標

初めてのセミナーは、幸運なことに、集客数131名というビッグセミナーとなった。受講料5万円の技術系セミナーの採算ラインは、およそ20名である。コンスタントに25名集客できれば、セミナー企画者としてはプロとして通用する。実力が身につけば、ヒットセミナーの最低ラインである集客数30名は狙える。狙った結果、年に1～2度、50名以上のホームランを放つこともある。だが、数年に一度実現する100名を超えるビッグセミナーや、十年に一度遭遇する200名を超えるスーパーセミナーとの出会いは、運の助けも必要である。そして、フジテックで間近に体験したことであるが、スーパーセミナーが取り上げる大テーマは、しばしばベンチャー企業のその後の命運を翻弄するほどの力を持つのである。今回は、スーパーセミナーにまつわる話題を体験談を交えつつ語りたい。

●大テーマとの出会い

「自動車軽量化」で幸運なスタートを切ったものの、その後は時折ヒットを飛ばす程度で普通の企画が続いた。昭和56年3～5月の期間は全くの不振で、社内の視線の厳しさを肌身に感じながら出社する毎日だった。あせりを振り解くように、連日テーマ調査を繰り返していたある日、神田神保町の三省堂書店で「ガストピア」という見慣れないタイトルの雑誌が目に入った。ページをめくると、「半導体用ガスの安全性」を取材した記事が目に入った。ヒラメクものがあり、企画会議にかけたものの、馴染みのないテーマのためか評判は芳しくなかった。DM発送に臨んでも小野社長からは「当らなかつたら大変だぞ!」とプレッシャーをかけられ続けた。企画力がないと判断されれば即、クビを宣告さ

れるセミナーベンチャーの実態が身にしみ始めた頃でもあり、当時は針のむしろの上の心境だったのである。だから、DM発送後一週間で約50名の申し込みがあった時は、他の社員の驚嘆をよそに、私自身はこれで首が繋がったという安堵の気持ちの方が強かった。

「半導体工業におけるガス利用技術と安全対策」セミナーは、昭和56年の7月、9月、10月と三度に分けて開催され、合計219名を集客するスーパーセミナーとなった。「半導体用ガス」は、ICチップの超精密加工、つまりコンピュータのメモリーやCPUの製造現場に不可欠のものであるが、産業の勃興期にあった業界には安全の根幹の部分の情報不足が不足していた。シランやホスフィン、アルシンなど、新規開発された百数十種の特種ガスは毒性や爆発の危険性が高く、情報開示(ディスクロージャ)による作業環境の改善が急務であった。電気・ガス両業界の隠蔽体質の改善に腐心していたM電機のF技師が「私たちは情報をオープンにし、共同して半導体工業の発展に尽力しようではありませんか!」と壇上から呼びかけてその熱弁を締めくくると、会場となった労音会館講堂は割れんばかりの拍手に包まれた。セミナーは大成功裏に幕を閉じた。「このようなセミナーを開催していただき、心から感謝したい」という、受講者から寄せられたアンケートが今でも心に残っている。

このセミナーがきっかけで、フジテックと同業他社の目が一気に半導体の製造環境に向かうこととなった。そこは専門家にさえ知り尽くされていない先端技術領域であり、ガス、薬品、超純水、ダスト管理、精密配管、クリーンルーム等々、どれをとっても企画として成立する可能

性を持ったテーマの宝庫だったのである。

●大テーマの系譜

ここで、ビッグセミナーやスーパーセミナーの対象となる大テーマの系譜を大まかに振り返ると、「自動車のNox・Sox対策」(昭和46～47年頃、フジテック主催)。「半導体用ガス」(昭和56年、フジテック主催)。「地球環境と炭酸ガス」(平成2年、NTS主催)。「環境ホルモン対策」(平成9年、サイエンス・フォーラム社主催)などが挙げられる。昭和40年代の公害問題、昭和50年代の半導体問題、昭和60年代以降の地球環境問題及び平成7年以降の化学物質問題と、十年間隔ほどで訪れる時代の大きな変化を先取りした結果であることがわかる。こうした問題は、マスコミが取り上げるより早く「ガストピア」などの業界紙や専門誌によって表面化することが多い。上述したテーマの多くが「環境」及び「ガス」絡みであることが興味深い。産業社会の規則的な動向に合わせてビッグチャンスに遭遇するには、マスコミ情報のみならず業界情報や現場情報に対する常日ごろからの心がけが決め手となる。私自身、過去25年間に4度のスーパーセミナーを体験しているが、その経験からスーパーセミナー成立の条件を挙げると次の三つが考えられる。①業界規模で革新を迫られるテーマであること(革新性)、②それが社会現象化し、いずれマスコミの取材対象となること(社会性)、③それをいち早く手がけること(速報性)である。

●余波

私のクビはつながったが、半導体製造技術という大テーマはセミナーベンチャー業界に思わぬ余波を及ぼすことになった。今回はその話をとり上げたい。

●今月の人事

【入社】
市川AIセンター

営業部営業2課

【退社】

営業部営業管理課

●編集後記

今月号のインタビューにご登場いただいた福長先生は、日常の業務と並行して「退官後にやり残した研究も続けている」とのこと。実験工房に並ぶ超高温合成用のプレス機、金型装置などは任せながらも、屋外と変わらぬ暑さにはダウン寸前。体力も研究者の重要な資質であることを実感した夏でした。(な)

●編集部からのお願い

NTSニュースでは読者の皆様からのお便りや投稿をお待ちしております。また、開催予定の勉強会・イベント等、掲載をご希望される方は下記宛までご連絡ください。

NTSニュース

2002年9月号(通巻45号)
2002年8月25日発行